

たずねびと教材解釈に向けて

2023年6月18日(日)中川初保

たずねびとを通して

「たずねびと～全体像をとらえて感想を書こう～」

・綾の戦争や広島や被爆者に対する感情や考え方の変化をとらえる→資料館や祈念館、おばあさんなどはそれぞれ綾に何を伝えるために出会ったのかを考える

段落読み

1.ポスターとの出会い

- ・迷いねこや迷い犬のように「いなくなったまま帰ってこなくて、誰かが探している」ひと。
- ・何十年も前のこと。
- ・どうしてだれも、この子のことを覚えていないのかな。本当に不思議な気がした。(家族も無くなっているなどの可能性を本当に全く想像もできない)
- ・チャイムが聞こえて駅を出る。忘れてしまう。

2.ポスターの夢

- ・ポスターの名前=読めない(認識していない)、羽虫のよう、ただの名前(7場面より)
- ・「クスノキアヤ」=ふいに浮かんで見えた(認識できている)、手をのばしたが、とどく寸前で目が覚めた(アヤ:探しに来てor綾:アヤを見つけない)

3.再びポスターへ

- ・メモに「死没者数」なども写し取る(などとは？他には？)
- ・広島市=県庁所在地。世界で初めて原爆が落とされたところ(何十年も前に)。それくらい。
- ・お兄ちゃんにひっぱられるようにして駅の構内をぬけた。(前日よりポスターへの関心が高まっている)
- ・家に帰って母に話す。夢の話はしなかった。
- ・広島に行けば、きっとアヤちゃんを見つけられるような気がした。

4. 広島へ(資料館)

・広島風景

秋の空は高く青くすんで

ゆったり流れる川にも空の色

ほね組みがむきだしのドームがその場にあるのが不思議

明るくて晴れ晴れ

→ここで本当にたくさんの方が死んだの——。(信じられない)

・資料館

半分も見て回らないうちに、わたしは頭がくらくらしてきた。何もかも信じられないことばかりだった。(信じられない、理解が追いつかなくてくらくら)

だけど、陳列ケースに並べられた、ご飯が炭化した弁当箱～が「本当なんです。あなたは知らなかったの。」と問いかけてくるような気がした。

→「本当なんです。信じてください。」ではなく、「あなたは知らなかったの。」綾が戦争について何も知らなかったことを表し、また、それを問いかけられるように感じる(責めているともとれる問い方で)のは知らなかったことを恥ずかしく思ったから？

たった一発の爆弾で、こんなひどいことになるなんて。

・亡くなった「十四万人」という数字

想像できない→全校児童の二百倍

そんなにたくさんの方が、たった一発の爆弾のせいで、この世からいなくなってしまったなんて。

→うちのめされるような気持ち

5. 祈念館

・原爆で亡くなった人たちが映し出されるモニター

たくさん子どもたち=私くらいの子。わたしより小さな子。おさない子どもたち。赤ちゃんまで。(この時点で綾は子どもに着目している)

たいていの子どもたちがかしこまって写っているなか、口元だけ今にも笑い出しそうな子がいた。

→つかのま、その子と見つめ合ったが、画面はすぐに切り替わってしまった。→途切れなく現れ続ける顔をずうっと見つめていたら、気が遠くなりそうだった。でも、どうしても目が離せなかった。なぜ？

6. 供養塔

・おばあさんとの出会い

なぜ毎日ここに来るのか。おばあさんの望み。1人でも多くの仏さんを家族の元に帰してあげたい。家族を探している。

・綾の質問

「何十年も、だれもむかえに来てもらえないなんて、どうしてなんですか。」☆彩がこの物語で初めて家族以外の人に話しかけた。そもそも綾はセリフが少なく、はっきりと声に出して話すこと自体珍しい？それでも自分からはっきりと聞きたかった。それほど気になっていた。

・「アヤ」の話

綾「わたし、クスノキアヤっていうんですけど。」

おばあさんの顔が輝く

兄「遺族とか、知り合いとかじゃないんです。」

おばあさんはだまりこむ。なぜ？

・おばあさんの言葉

「この楠木アヤちゃんの夢やら希望やらが、あなたの夢や希望にもなって、かなうとええねえ。元気で長う生きて、幸せにおくらしなさいよ。」

綾は恥ずかしくなって下を向く。そんなことは考えたこともなかった。

7. 帰り道

・広島風景

静かに流れる川、夕日を受けて赤く光る水

昼はきれいな川はきれいな川でしかなかった。ポスターの名前が、ただの名前でしかなかったように。→今は？ここで何があったかを知った。ポスターの人々に何があったのかも知った。

・綾の決意、想い

楠木アヤちゃんが確かにこの世にいて、あの日までここで泣いたり笑ったりしていたこと(自分たちと同じように普通に過ごしていたこと)、そして、ここでどんなにおそろしいことがあったかということ(14万人以上の命と街が一発の爆弾によって奪われたこと)――をずっとわすれないでいたら、世界中のだれも、二度と同じような目にあわないですむのかもしれない。

・夢の中のポスターの名前=読めない(認識していない)、羽虫のよう、ただの名前(7場面より)

→いくつもいくつものおもかげが重なって浮かび上がってきた。(名前だけではなく、当時広島に住んでいた人の顔や生活を見て、ただの名前から実際に生きていた人と生活につながった→繋がったからこそ戦争の恐ろしさと、世界中の誰もが二度と同じ目に遭わないように考えた)

疑問点

- なぜ綾はお母さんに夢の話をしなかったのか
- 気が遠くなりそうになったのになぜモニターから目が離せなかったのか
- なぜおばあさんは供養塔に毎日来ているのか
- なぜおばあさんは黙りこんでしまったのか

課題

- ・6の場面はおばあさんの行動に対する疑問点が多い。6場面でも綾の行動から問いが作れないか。
- ・綾と一緒に子どもの関心を高めていくにはどうすればいいか。
- ・この単元の目標は？「全体像を捉える」とは？(あらすじとどう違うのか)